

いない。通行止めを受けて、森林体験交流センターも利用中止として、フライフィッシング教室等も会場を変えて開催した。湖畔広場の復旧は相当の費用が見込まれるので、町費での完全復旧は困難と判断しており、開発局とも協議が必要となっている。なお、この冬のワカサギ釣りは例年通りオープンする準備を進めている。また、鹿の子沢は道路の決壊や一部応急処置をした遊歩道も安全確保ができないため通行止めとしている。網走中部森林管理署と協議しながら来年度の利用再開を進めていく。河川の状況は北海道が管理する常呂川・オンネアンズ川・仁居常呂川については、いずれも現状確認後に検討することのこと。災害申請箇所は仁居常呂川の川東橋上流左右岸で工事着手は平成29年5月の予定。

問 常元の道路沿いの立木の伐採を。

答 交通安全上支障となればオホーツク総合振興局網走建設管理部で伐採する。

問 拓殖橋上の河川の砂利が大雨で堆積されている。川底を下げて川の氾濫を防ぐよう川の管理者と協議できないか。

答 今回の災害で北海道知事は河川の土砂上げに重点的に予算をつけると言っているが、箇所がたくさんあるため、要望しているがなかなか進んでいない。引き続き要望していく。

問 『ゆうゆ』進捗状況並びに地域住民への要望事項などありましたら。

答 ホールとレストランとの仕切りはガラスにした。大浴場は、浴槽を大きく取り、家族連れのために低温湯を新たに設置し、洗い場を広くしている。休憩場所と宴会場はフローリングの床を新設し、イスとテーブルを配置する。コテージは床、壁材、露天風呂を一新した。工期は平成29年1月いっぱい、順調に進んでいる。10月24日、11月4日に町内各界の皆様にお集まりいただき、ゆうゆの運営をする町内事業体の可能性についてご意見をいただいた。町としては、町内での経済循環や地域の活性化、町の財産として長く運営され、そして温泉ファンのみならず町民の皆さまに愛されるゆうゆの再出発を目指してご意見をいただいていたところだ。その中で、「町外に指定管理者を求めるよりも、町民力を結集して、町内で新たな会社、組織を設立して運

営にあたること、運営の継続性、経済や雇用又は観光の重要な資源、置戸の財産としてのゆうゆ運営が一番良いのではないか。またその組織形態は利益を優先する株式会社ではなく、公共性も重視して存立する一般社団法人としたい」との提案に対し、理解をいただいたところだ。現在、社団法人を設立すべく準備会を11月18日に発足させた。議論をいただいた皆様からもその趣旨に賛同いただき、12名の方にその社団の経営参画の意向をいただいたところである。今後はその方々一般社団法人の社員、判りやすく言うと株式会社という株主として、10万円の出えん金をいただき、経営参画いただくこととなる。なお、現在参画の意思をいただいた方の他に、今後町民の皆さまにも3名程度の公募社員を募集する予定である。なお、出えん金については株式と異なり、配当等の利益分配はできない制度となっている。現在、一般社団法人の年内設立を目指し検討を重ねている。設立には社団の組織形態や業務内容を定めて登記して成立となるので、設立後、開業の準備として職員の募集を行い、29年4月のオープンをめざしている。「レストランではどのような物が」「コテージの予約はいつから」また料金設定等、まだまだ経営の方針で定まっていなくても多々あるが、社団設立後、経営参加者、理事会組織等で議論を進めていく。町としては、この社団運営、ゆうゆ経営に資金面含めて全面的にバックアップしていきたいと考えている。多くの町民の皆様から2年間の休業に及んだ「ゆうゆ」に対して、ご心配と同時に改修工事が進みリニューアルオープンにご期待が高まってきている。町民の皆様の声に対応できるような「ゆうゆ」を目指していこうと考えているので、多くの町民の皆様はじめ、町外の親戚、知友人、「ゆうゆ」ファン等利用者の増大にご協力をお願いしたい。「ゆうゆ」は置戸の重要な資源であるが、勝山地区にとって地域活性化の温泉でもある。当初のオープン時には「ゆうゆまつり」等勝山の皆さんの協力を得てにぎやかに開催していた。今回再開を計画する中では、長く地域に愛される、多くの町民に支持される施設を目指す方針で進めている。勝山の皆さまにも様々な面で運営も含めてリニューアルする「ゆうゆ」に特段のご理解ご協力をお願いする。